

平成17年度 活動報告書のフレーム

1 序

2 活動経過

3 団体に共通する課題

(1) 永続する経営体としての中期経営計画

資金面、特にキャッシュフローが明示的に意識されていない。

計画期間中の予定計算書類(損益計算書、貸借対照表)が不十分な団体がある。

単年度の予算がすなわち中計のビジョン(3~5年後の団体の姿)が描く当年度のアクションプランというのは余りに役所的発想である。

(2) 外郭団体としての存在意義と自律した経営体としてのバランス

法人の設立趣旨の発揮と自律的運営の両立に腐心し過ぎる余り、結果、本来の目的を見失っていないか。

民間事業者でなく3セクが行う意義は何か、また利益重視は民業圧迫にならないか。

資産売却は、当社単体で判断するのではなく、市との連結で判断すべき場合もあるのではないか。

(3) 利害関係人が明確でなく、ニーズを掴み取れていないのではないか

利害関係人(顧客、ステークホルダー)は誰か。

事業のコンセプトを時代やニーズに合わせて変化させてきているか。

流通・商業という事業領域は、変化が必要な業種業態であることを再認識し、リニューアルの準備等に備えていくべきである。

消費行動が変わっているが変化に対応できていない。

4 団体に共通する助言・提案

(1) 実行段階にある中期経営計画の精緻化と確立

(2) 設立趣旨の変容や公益実現の担い手の多様化への対応

(3) 利害関係人を明確にし、そのうえでニーズの変化への適切な対応を図ること

5 全団体の助言・提案を終えて

